

2011.7.1

Contents

朝日 住まいづくりフェア2011開催

和室のこころ

連載

- HABITAな風景
- 住まいは巢まい
- キニナルマドリ
- 住まいのオーダーメイド館403
- 住まい文化の葉
- 住健住康
- Green Earth
- わたしたちのHABITA
- 豆ハビ
- 5th ROOM



考えない時間

色とりどりの
花の季節が過ぎて
賑やかな風景から
落ち着いた景色に。

なんにも考えずにぼんやり過ごす。
頭をからっぽにする、
そんな時間もとても大切だと思う。

Picture Window.
窓と軒で区切った額縁からは
目にやさしい緑がたっぷり。
休日は、目と頭を休める日
考えないことが
ふだんの考える力になる。

Weekly HABITA 054

朝日 住まいづくりフェア2011開催

5月19日から22日、東京ビッグサイトにて、国内最大級の住宅展示会「朝日 住まいづくりフェア2011/住宅設備・建材EXPO2011/住宅自然エネルギー展2011」が開催されました。

東日本大震災後ということもあり、趣味の空間の提案など、昨年見られた華やかな展示より、地震対策、災害対策、太陽光発電など、自然エネルギーの展示が多く、来場者の目を集めていました。来場者は4日間で35,828名でした。



その中、目を引いたのが、1枚の天然木で造った家具を提案する株式会社 関家具です。同社は、福岡県の大川家具470年余の伝統と文化を継承しつつ、環境に優しい快適な生活空間の提案をしています。

福岡県大川市は、室町時代からの歴史のなかで、船大工から指物へ指物から箱物へと伝統産業・伝統技術を持ち、常に時代に合わせながら現在でも日本一の家具の生産高を誇る地域です。その伝統と革新に取り組み、様々な家具を提案しています。幅1.1m長さ6.3mの大きなテーブルは置いてあるだけでも迫力があります。訪れた人はその木肌を触り、椅子に腰掛けテーブルの存在感を確かめている様子が多く見受

けられました。樹高45m、直径2mに達することもあるブビングの木は、アフリカの赤道地帯を、ナイジェリア南東部から、カメルーン、ガボンを経てコンゴ地域に分布します。樹齢300~400年の大木を活かしたテーブルは貴重なだけあって、価格は315万円。大きさの迫りに圧倒されるばかりか、まさに子々孫々に受け継いでゆくべき家具でもありました。

三澤 千代治の

住まいは巢まい

庭のライフサイクル

街路樹や公園の緑が鮮やかになり、梅雨明けが待ち遠しいこの頃。花や緑とつき合う時間が長くなるなかで、庭もライフサイクルに合わせての変化があつてよいのではないのでしょうか。具体的には年代による使い方で3つの庭が考えられるのです。「運動する庭」「楽しむ庭」「鑑賞する庭」の3つです。

「運動する庭」は、30代で子育ての頃がいい。子どもが跳んだり、はねたり、走ったりできる芝生のある庭です。子どもの健康にいいし、植物に親しむことで情操教育にもなります。勿論、若夫婦がゴルフの練習をしたり、体操をする場にもなります。周囲はせいぜい生け垣ぐらいでよいのです。

40代になると「楽しむ庭」になります。子どもに手がからなくなるので、自分で木を植えて花を咲かせ、鳥が飛んでくるのを楽しむ庭というわけです。キウイなどの果物をつくる日曜菜園もいいかもしれません。子離れしての本格的な庭づくりへの専念ということです。

50代、60代と年を重ねていくと「鑑賞する庭」になります。10年、20年前に植えた庭木も大きく育ってきます。それを眺めて楽しむ鑑賞する庭ができあがるわけです。外を往来する人が、「素敵な庭ですね」と褒めてくれるでしょう。そこからまた新たなコミュニケーションが広がるかもしれません。

(MISAWA・international 社長)



けられました。樹高45m、直径2mに達することもあるブビングの木は、アフリカの赤道地帯を、ナイジェリア南東部から、カメルーン、ガボンを経てコンゴ地域に分布します。樹齢300~400年の大木を活かしたテーブルは貴重なだけあって、価格は315万円。大きさの迫りに圧倒されるばかりか、まさに子々孫々に受け継いでゆくべき家具でもありました。

和室の こころ



日本人であれば家を建てる時に和室が欲しいと思うのは、とても自然な要望であると思います。なんと言っても日本人の心を象徴している空間です。しかし現代の生活の中に本当に必要な空間かという疑問も生じてきます。私たちにとっての和室の価値について考えておきたいと思います。

和室が欲しいですか。

「少し大きめのリビングと主寝室があって、子どもの数だけ子ども部屋があればよい。…それとできれば和室がひとつ欲しい」

家を建てる時の究極の要望をまとめあげれば上記のようになるのでしょうか。和室があると言うことは、日本人の住まいとしては忘れられないことです。同じように住宅への要望をアメリカ人に問うと、「ガレージが欲しい」と答えるそうです。和室とガレージはまさに日本人とアメリカ人のライフスタイルを象徴しているようです。

日本人の和室の場合はさらにイメージが膨らみ、可能であれば床の間をつけたいと思う人も多くいます。実際に家を建てて住み始めて1年ほどの実生活を調べたアンケートがあります。その中で床の間がある家を建てている人は半数を超えています。

しかし和室が何の目的で必要であるかは、いまひとつはつきりしません。同調査の内容から和室に関する情報を引き出しても、和室の使われ方の筆頭にくるのは、「さまざまな使い方をする」が68.9%。その次には「来客時の部屋」としているのが43.1%です。

さまざまな使い方の事例としては、正月の鏡餅や雛祭りや端午の節句などの人形を飾っている家庭はほぼ半数に上り、日常的な空間としてより、四季の催事に使っているのです。

この様に、来客のための空間を庶民の住宅の中にまで伝統的に普及しているのは、日本だけの住まい文化と言えるでしょう。それだけに日本人

が和室を作りたがる意味は深いものだと言えます。

和室を使いこなすこと

和室が日本人にとって忘れがたい存在である一方、住まい以上に日本人の生活スタイルが変化してきました。感情としては和室の存在価値は依然大きいのですが、文化的な和室の使い方は忘れられようとしています。つまり和室を使いこなすことが伝授されていないのです。



例えば、年末の大掃除では風物詩のように語られていた障子紙の張り替えも、実際に自分で行う人はほとんど見られなくなりました。柱や廊下を磨くのも同様です。

格式のある和室の生活を維持するためには、それなりの文化の継承も大切です。すっかり工業化された和室の造作と同時に、私たちは和室の使い方とも忘れていくのかも知れません。どうしても憧れとして和室を求めたくなりますが、先のアンケートの中にはまったく逆の数字もあります。暮らし始めて1年も経たないうちに、和室の畳の



上にカーベットを敷いて暮らしている家が1割にもおよぶのです。

さらに同調査の中では、床の間に掛け軸を掛けているのは半数しかなく、季節によって掛け変えている家は、もっと少なくなります。本格的に和室を使いこなすためには、文化的な知識がなければ維持できるものではありません。

床の間も憧れですが、その床の間に掛ける掛け軸がどのような由来のものであるかを知らずに掛けるわけにもいきません。山水画の掛け軸ひとつにしても、明かり窓の方向に合わせた画を選ばなければいけません。単純に言えば、絵の落款を明かりのない側に配置します。その意味では絵が分かり、書が分かり、詩歌が分かり、漢詩が分かり、焼き物が分かり、花が分かるだけの文化度が床の間・掛け軸には必要なのです。

床の間の前身と言われる室町時代の押板では、三幅一対の仏画を掛けて三具足を置くのが原則でした。三具足とは、香炉と燭台と、花を立てた花器です。この三具足は鎌倉時代以前から置かれていたものです。

和室や床の間に憧れても歴史や文化を知れば知るほどに、単純に求めれば良いというものではなく、日頃からの日本文化の学習をしておかなければならないようです。

数寄屋が教えてくれる

しかし和室の本当の使い方を考えながら暮らすのでは疲れてしまいます。和室が欲しいと思うのも、あくまでもちよつと気楽に使え空間として欲しいという程度のことです。求める人が本格的に茶道や華道を学んでいる訳でもありません。日本人の心の余裕という意味で突き詰めれば、単純に畳の部屋があればよいのかも知れません。横になつてくつろぐこともできずし、アイロン掛けや洗濯物をたたむのにも畳は快適な空間です。同様に障子も有用な和室のアイテムです。カーテンを取り付けるよりも障子の方が断熱性や気密性も高まり、デザイン的にも和みます。

では、どこまで和室を崩して考えても良いのでしょうか。実はその限度も伝統が教えてくれます。それが数寄屋づくりです。先に書いた伝統の押板や書院の造りを破壊してきたのが数寄屋だからです。

数寄とはもともと好き者の意味です。ややもすれば変わり者とも言われかねないほど、新しいことに挑戦してきた者達です。ワビ・サビも、侘びしいもの、寂れたものに価値を見出した

ものです。本当は厚い天井材を使いながら薄物の材を使っているかのように細く見せ、古びれてできたシミにも趣向を求めました。

中でも象徴的なのは、公家山科家^{やましな}にいた大沢久守は日用的に使う器に花を立てて床の間に飾っていたと言われます。しかもその器とは、飯びつや馬桶でした。とても正式な押板に飾れるものではありません。むしろこうした数寄の趣向をあえて凝らすことができる、新しい床の間を考え出していたのです。



床の間の「床」の由来こそ、畳が敷かれた上段の最高位の座とされています。しかし現代の床の間に至るまでには、このような過程がありました。数寄屋から習えば、床の間を格式のあるものとは考えず、どんな挑戦も受け止めてくれる自由な発想のものだと考えれば良いのです。

自由空間としての和室

床の間だけではなく、和室そのものが同様に自由なものです。家具を置けばその家具によって、部屋というのは用途も決まります。家具がなくても単なる空き部屋とはならない和室というのは、日本人の空間デザインの大発明と言えるかも知れません。

逆に、いたずらに偽物の材料を使って本格的な和室に見せることが、もっとも理にかなわないことではないでしょうか。いかにも杉の柾目の天井板のように見せて、歯磨きのチューブと同じラミネート材に木目を印刷した天井を、メンテナンスが楽だと言って選んでいるのはあわれですらあります。

畳があつて自由に寝ころび、家具が無くても存在感のある和室は、実は自由な心の象徴です。そして住み暮らすための最低限必要な空間の他に、自由に使うことができる間があることはまさに心の余裕です。茶室のように小間と呼ばれる狭さであっても、どこかに自由な空間を作ることは日本人らしい住まいづくりの大切なポイントになるでしょう。

山科公のように馬桶の代わりにデジタルフォトフレームを置いて、現代の数寄屋に挑戦していると思えば好きな発想を広げることができます。和室という言葉に縛られず、床の間の形や仕様にとらわれず、自由空間としてプランニングの要素に加えることをおすすめします。



キニナルマドリ



1階 15坪

2階 18坪

なにか新しいことを

外観は普通に見えても、玄関を開けたらすぐに、なにかこれまでと違う家の雰囲気を感じる。

環境のために、そしてエネルギー節約のために、さらには自分の健康のために、すこし奮発してインテリアにもなりそうな自転車を買おう。雨の日に外で遊べない子どもの友達たちは、うちには呼ぼう。

家の中でハンモックに寝る。高いジャングリズムを組む。小屋裏を眺めながら寝転ぶ。仕切りの家具を買い足してゆく。

これだけの空間の中に、なにか新しいことをしたくなる、ちょっとした空間が盛り込まれている。



HABITA KADOYA



住まいのオーダーメイド館

Sofa CHRISTIE

「CHRISTIE/クリスティ」のコンセプトはARTS&Crafts Styleを基に、現代生活の道具として、安らぎと親しみを求めたデザイン

です。良質のアルダー材を用い、シンプルでハイ・クオリティな商品として開発しています。

アームチェアとサイドチェアは背がラダーバック(梯子状)のデザインです。掛け心地は半径1mの背板でゆったりとしたフィット感があります。塗装はアルダー材へのオイル塗料で着色し、トップコートにウレタン塗料を用いて落ち着いた色のあるブラウン色に仕上がっています。

このシリーズのソファは、コンパクトなサイズですが、座面の奥行き寸法が大きく、ゆったりしています。背にクッションを置けば通常のソファの奥行きになります。ちょっと横になれるベンチのようなソファです。どこか懐かしさがあるスタイルが特徴です。

住まいのオーダーメイド館 403
東京都新宿区新宿1-2-1-1F
<http://order403.com/>

403



サイズ:W700×D675×H700×SH420mm
材種:アルダー
商品価格:¥124,740(税込)
403掲載商品No. G-0199_070

住まい文化の栞

グラバー邸と桂離宮

現代の一般的な住宅の工期というのは、90日~120日です。工業化を進めたプレハブ住宅では、さらにその半分の工期で完成します。言わば工事を現代化すると言うことは、工期を短縮するということでもあるのです。今ではほとんど建てられることが少なくなった、本格的な木造ではゆうに1年を掛けて建設していました。でも、本当の意味での完成までにはどの建物でも、時間がかかるものです。

たとえば現代に残されている古民家を見ても、ほとんどの家には手が加えられています。それも単なる修復ではなく、改築が行われています。現代の生活の変化に比べれば昔の変化は少なかったかのように感じてしましますが、こうした古民家の改修を見る限りはそうとも言えません。

良い例として長崎のグラバー邸が上げられます。1863年に完成されたとしていますが、現代に残る家とはかけ離れています。当初は別邸



として建てられたものが、住居として住まわれるようになり、さらには時代の流れの中で幕末の志士をかくまうために隠し部屋までが造られた。4度に及び増築後の姿を、私たちがひとつの建物として見ているのです。

同様に京都の桂離宮も古書院が完成した1615年から、中書院・新御殿と40年間にわたり増築されてきました。

歴史を重ねると言うことは、変わってゆくことでもあります。現代の工期で完成し、壊されてゆく建物はまるで仮設住宅のようなものです。当然コストをかける価値もありません。

仮設住宅と言えば、東日本大震災でも強く求められています。増築しながらでも長く残す住宅が文化を築く住宅になります。

住 健 住 康

じゅうけんじゅうこう

太陽と上手につきあう

シミを作る悪者としてメラニン思い浮かべる人は多いことでしょう。けれど本来は紫外線を吸収して肌を守る働きをしています。ただ、メラニンが過剰に生成されたり、紫外線を吸収して黒くなったメラニンの分解が進まなくなったりすると、それが肌に残ってシミやシワの原因となるのです。いずれにしろ、紫外線の浴びすぎは良くありません。

日焼けをして赤くなった後に黒くなる人がいます。一方で、赤くなるだけで黒くならない人がいます。とくに紫外線ケアで注意しなければならない人は後者。赤くなる人は紫外線を防御する力が弱い人ですから、念入りな紫外線ケアが大切です。

そこで活躍するのが日焼け止め。日焼け止めには必ずSPFとPAの表記があります。SPFは紫外線B波の、PAはA波のカット指数を表しています。B波は肌を赤くする日焼け、A波は肌を黒くする日焼けを起こすものです。エネルギーそのものはB波の方が強い。そのため、A波は無視されがちですが、波長はA波の方が長く、肌の奥まで届き



ます。つまり、時間をかけて肌を老化させるのはA波ともいえるのです。

日常生活に使用するものなら、SPF20以上あれば十分です。海や山へ行くときには高めのものを上手に使い分けることで、肌への負担も少なくなります。

ウォータープルーフやSPF値の高いものを使った後は、肌に残っているのではないかと気になるものです。けれど化粧品は基本的に肌につけっぱなしでも大丈夫なものです。何を落とさなければならぬかという、化粧品膜についた汚れ。日焼け止めの場合も紫外線カット膜についた汚れを落とす必要があるのです。体につけた日焼け止めを落とす場合はいつも体を洗う感じで良いのです。気にしてゴシゴシこする方が肌に負担になり良くありません。

日焼け止めも化粧品のひとつ。自分の肌に合った日焼け止めで、太陽と上手につきあってゆきましょう。

アンケートにお答えいただいた方に

お部屋のレイアウトやインテリアのコーディネートに役立つ、「HABITA ドットシート」を20名様にプレゼント!

プランづくりに挑戦!



HABITA ドットシートとは
このシート上に実寸の1/100の縮尺で間取り図(プラン)を描いていただき、お持ちの家具の寸法をはかって手描きで配置ができます。購入予定の家具を自由にレイアウトしたり、間取りを考えたりと、新しい家づくりに役立ちます。

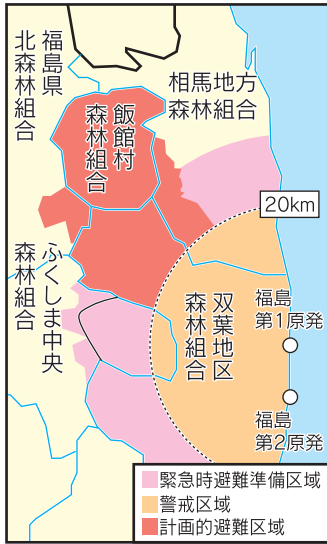
応募方法
官製ハガキに(1)住所・氏名・電話番号(2)年齢(3)職業(4)性別(5)本誌以外の購読誌(6)今までのおもしろかった記事とその理由(7)その他特集してほしい記事や内容など、以上をご記入いただき、下記係までご応募ください。
当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1
MISAWA・international株式会社
「WeeklyHABITA プレゼント係」

Green Earth

福島第1原発事故で林業危機

日本は、国土の67%が森林で、その内41%が人工林です。人工林は、良質な木材資源を育てるためと、山の土砂崩れを防ぐ防災の役割もあります。その人工林には、植林にはじまり、除草、下草刈り、つる切、間伐、枝打ち、除伐といった手入れが必要です。つまり、よい人工林を維持するためには、人の手が必要なのです。

今回の東日本大震災に続いて発生した福島第1原発事故で、警戒区域や計画的避難区域に指定された11市町村には、約1380km²の森林があり、5つの森林組合が管理しています。福島県には、9722km²の森林のうち、3426km²の人工林があり、7億本から10億本の樹木が育っていることとなります。その比率で勘案すると、警戒区域や計画的避難区域に指定された森林には、9.8km²の人工林があり、2万本から3万本の樹木があることとなります。



今までこの人工林で林業に携わっていた人も、放射能の影響から避けるために、避難しています。その間、人工林の手入れができず、山は荒れます。さらに、避難が長引けば、林業から離職する人も多くなることが、容易に予想できます。また、事故が終息し避難指示が解除されても、平地の畑と違い、汚染された山の土壌を入れ替えるのは非常に困難です。

福島県森林組合連合会は県内の他の組合の仕事を回して5組合を支える方針。林野庁は山林の汚染状況を調査する予定ですが、具体的な除染対策は見通しが立たず、「当面は東京電力の賠償金や国の支援を活用して事業継続の努力をしてほしい」としています。

地産地消を目指せば、影響の拡大と長期化がないことを、強く願っています。

豆ハビ

雨だれの音を楽しむ

家には必ずある雨桶。でも、この桶は絶対に付けたくないのかもしれない。実は、寒冷地やリゾート地、火山灰の地域に建っている家には桶はないんだ。大きな屋根で、葺き下ろしにして、隣の家に迷惑がかけなければ、桶はいらない。

日本の家の屋根のカタチは、雨の季節のために考えられたのかもしれないね。雨だれの音を楽しんでみると、家の中で過ごす梅雨の季節も少し楽しくなるかも。

心やすらぐ花の祭典に多くのお客様が訪れ、色とりどりのバラの花々に酔いしれていました。

そんな時期に我が家の花々も咲き誇っていました。4年前の秋にバラの苗が届き、その日から家族の生活まで一変しました。土作りから、毎週のように家内と二人でガーデニングの日々が続きました。何気ない土や排水、日当たり、風通しを気になるようになりました。そして2年目には大きく伸びたバラを、まるで絵を描くようにテラスの下に針金誘引していききました。そうすると、あつと



5th Room

ローズガーデン

今年のバラのシーズンには、多くの場所でバラを中心としたガーデニングフェアが開かれました。西武ドームでは「国際バラとガーデニングショー」が盛大に開かれ、また、九州のハウステンボスでは100万本のバラの花が飾られ、自慢の地植えのバラも公園やホテルに所狭しと並んでいました。何キ口もある運河沿いに垂れるように咲き誇るつるバラや、アート風の大きなオベリスクやアーチのある宮殿を背景にしたバラの花…。大震災で心が塞ぎこんでいるときに



音楽の間こえるHABITA

「木をふんだんに使い、長く住み継いでゆける住まいを捜していた。」と語るのは、千葉県のHABITAにお住まいのお客様。

過去に他社で同じような住宅を頼んだ所、床材を無垢にしたり、天井を現しにしたりするとオプションとして多額の費用がかかってしまい一度家づくりを諦めた経緯があったという。しかしHABITAは初期コストの中に理想的な部材が組み込まれており、コスト的にも満足のいくものであった。

友人が訪れるとまず言われるのは木の良い匂いと音の反



響。天井を張らず、カナダ出身のご主人が弾くギターの音色は家全体に柔らかく反響してとても心地良いとの事。小さな赤ちゃんも一緒になって歌を歌う。窓からもれる素敵な旋律は、通行人が立ち止り家を眺めていく近所でも評判のお家だ。

施工は千葉縣市川市の提携企業DAISHU。これから建築をお考えのお客様には、末長く住み継いでゆける住宅を考えていてもらいたいと語る。

住まいづくりにちょっと役立つドキュメントTV

HABITA/TV

HABITA/TV 検索

詳しい内容は、HABITA/TVの4ch、『HABITA DAISHU お客様インタビュー』で紹介しています。

くれます。風が通り、その香は人々に癒しをもたらせます。

人間には嗅覚、触覚、聴覚、味覚、視覚と五つの感覚が備わっています。これに、機能や便利や快適なエクステリア商品を組み合わせることにより、見違えるような素晴らしいガーデン空間に変わります。無機質なカーポートは私から見ると最も素晴らしいバラのための骨組みとして使えます。とげに弱い方は、香り高いつるバラはいかがでしょうか。

このローズガーデンでは、体が持つ全ての感覚機能を有効に使い、植物をもっと身近に楽しむことができます。自分で丹精こめて育てたバラや植物だと家に帰った感動がひとしお。みなさんも挑戦してみたいはいかがでしょうか？

Takasho

「ポーチガーデン®」 家と庭をつなぐ、もう一つの部屋。

詳しくはホームページへ!



折戸パネル仕様で、フルオープンにすれば開放的なガーデンルームに。



ライティングをプラスして、夜でも快適なつるぎの空間をつくれます。



屋外で気軽に家族団らんが楽しめるもう一つのリビングとして。



5th ROOM

Following the living room, dining room, kitchen, and bed room, the "5th room" is the setting for a new happy lifestyle. L+D+K+B & G (5室目の部屋)

やすらぎのある空間づくり 株式会社タカショー 和歌山県海南市南赤坂20-1 〒642-0017 お客さまサービスセンター 0120-51-4128